

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート
調査結果
（教員、大学院生対象）

平成 24 年 3 月

新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ

アンケート調査の概要

1. 調査目的

新中央図書館の主な利用者層となる部局の教員を対象に、学内に所蔵されている資料の現在の利用状況、新中央図書館における望ましい資料の収蔵方法や図書館のあり方等についてのニーズ調査を行い、調査結果を今後の新中央図書館基本計画策定の参考とすることを目的とする。

なお、該当する部局の大学院生についても、教員を通じて同一のアンケート回答について協力を依頼した。

2. 実施期間

平成 23 年 11 月 9 日～平成 23 年 12 月 26 日

3. 実施方法

実施部局

箱崎地区：人文科学研究院、人間環境学研究院、法学研究院、経済学研究院、留学生センター

伊都地区：比較社会文化研究院、言語文化研究院

調査方法

各部局教授会でWGメンバーよりアンケートの主旨について説明

回答は web アンケートフォームへの入力により行った。

1. 所属部局と職名についてあてはまるものを選んで回答してください。

回答状況

部局別回答者数

部局	回答者数(人)
人文	25
比文	37
人環(文学部系)	7
人環(教育学部系)	4
人環(工学部系)	11
法	33
経済	9
言文	12
留学生センター	8
	146

※人間環境学研究院，同学府については，便宜上「文学部系」「教育学部系」「工学部系」とし別個に集計した

職名別回答者数

職名	回答者数(人)
教授	45
准教授	50
講師	6
助教	5
その他	5
大学院生(修士)	18
大学院生(博士)	17
	146

※「その他」の内訳は，非常勤講師 3 名，研究員 2 名である

回答状況詳細

教員回答数（部局別/職名別）

部局	職名	回答者数(人)
人文	教授	8
	准教授	9
	講師	1
	その他(非常勤講師)	3
比文	教授	12
	准教授	5
	講師	5
人環(文学部系)	教授	1
	准教授	3
人環(教育学部系)	教授	1
人環(工学部系)	准教授	3
	助教	1
法	教授	12
	准教授	15
	助教	1
経済	教授	6
	准教授	2
	助教	1
言文	教授	4
	准教授	8
留学生センター	教授	1
	准教授	5
	助教	2
合計		109

部局別回答率（教員）

部局	所属教員数	回答者数	回答率
人文科学研究院	53	21	0.396
比較社会文化研究院	45	22	0.489
人間環境学研究院	65	9	0.138
法学研究院	80	28	0.350
経済学研究院	62	8	0.129
言語文化研究院	38	12	0.316
留学生センター	15	8	0.533
合計	358	108	0.302

※所属教員数は九州大学概要（2011年度）による

大学院生（部局別/職名別）

部局	職名	回答者数(人)
人文	修士	3
	博士	1
比文	修士	4
	博士	10
	その他(研究員)	1
人環(文学部系)	修士	2
	博士	1
人環(教育学部系)	修士	2
	博士	1
人環(工学部系)	修士	5
	博士	2
法	修士	2
	博士	2
	その他(研究員)	1
合計		37

2. 学内資料の利用状況について

(1) ご自身の研究や教育を行うために、下記の資料を現在どれくらいの割合で利用していますか？

選択肢 1)～7) 全体で 100% となるように回答をお願いします。(必須)

※文系地区の資料について、詳細がわからない場合は 2) に含めてください。

※図書館で管理していない資料についてはすべて 7) に含めてください。

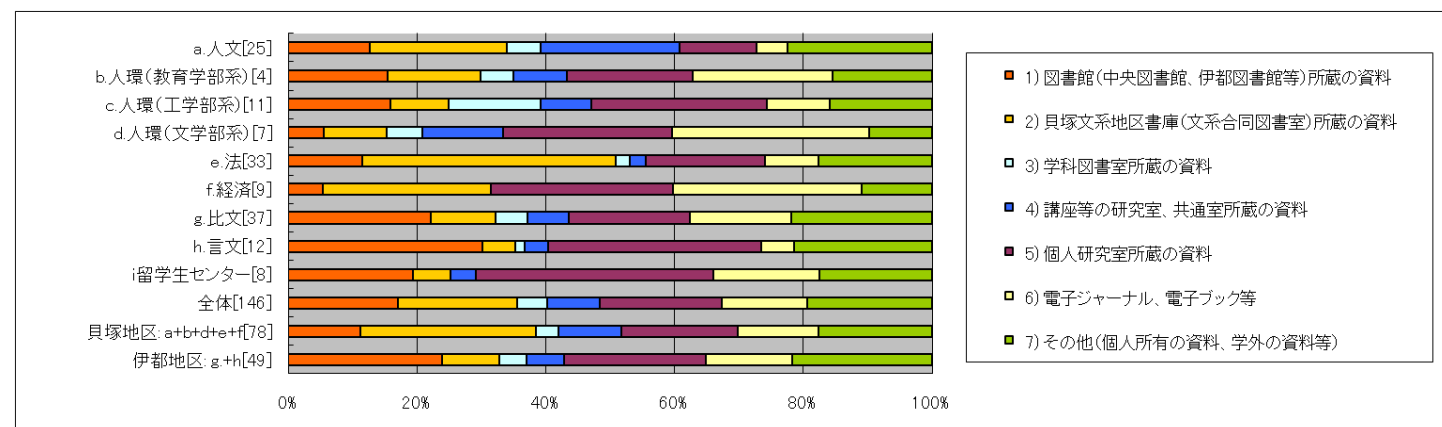
■所属別に集計し項目毎の回答について平均値を算出

所属[回答数]	1) 図書館(中央図書館、伊都図書館等)所蔵の資料	2) 貝塚文系地区書庫(文系合同図書室)所蔵の資料	3) 学科図書室所蔵の資料	4) 講座等の研究室、共通室所蔵の資料	5) 個人研究室所蔵の資料	6) 電子ジャーナル、電子ブック等	7) その他(個人所有の資料、学外の資料等)
a.人文[25]	14.8%	24.8%	6.0%	25.2%	14.0%	5.6%	26.0%
b.人環(教育学部系)[4]	37.5%	35.0%	12.5%	20.0%	47.5%	52.5%	37.5%
c.人環(工学部系)[11]	25.5%	14.5%	22.7%	12.7%	43.6%	15.5%	25.5%
d.人環(文学部系)[7]	5.7%	10.0%	5.7%	12.9%	27.1%	31.4%	10.0%
e.法[33]	12.4%	42.7%	2.4%	2.7%	20.0%	9.1%	19.1%
f.経済[9]	5.6%	26.7%	0.0%	0.0%	28.9%	30.0%	11.1%
g.比文[37]	28.9%	13.0%	6.5%	8.4%	24.4%	20.5%	28.4%
h.言文[12]	34.2%	5.8%	1.7%	4.2%	37.5%	5.8%	24.2%
i.留学生センター[8]	25.0%	7.5%	0.0%	5.0%	47.5%	21.3%	22.5%
全体[146]	20.4%	22.3%	5.7%	9.8%	22.9%	15.8%	23.3%
全体(院生回答を除く)[111]	16.2%	19.5%	3.0%	9.0%	28.2%	13.0%	23.8%
貝塚地区: a+b+d+e+f[78]	13.1%	31.8%	4.1%	11.4%	21.2%	14.6%	20.5%
貝塚地区(院生回答を除く): a+b+d+e+f[64]	11.1%	30.2%	3.1%	10.8%	20.2%	10.5%	20.2%
伊都地区: g+h[49]	30.2%	11.2%	5.3%	7.3%	27.7%	16.9%	27.3%
伊都地区(院生回答を除く): g+h[35]	24.6%	4.9%	2.0%	6.0%	35.3%	16.6%	29.7%

文系合同図書室を主に利用する部局の利用形態を把握するため、箱崎地区の部局のうち、人環(工学部系)と留学生センターを除く部局をとくに「貝塚地区」として集計した。

全体、および地区ごとの集計については、大学院生の回答をのぞいた集計も行なった。

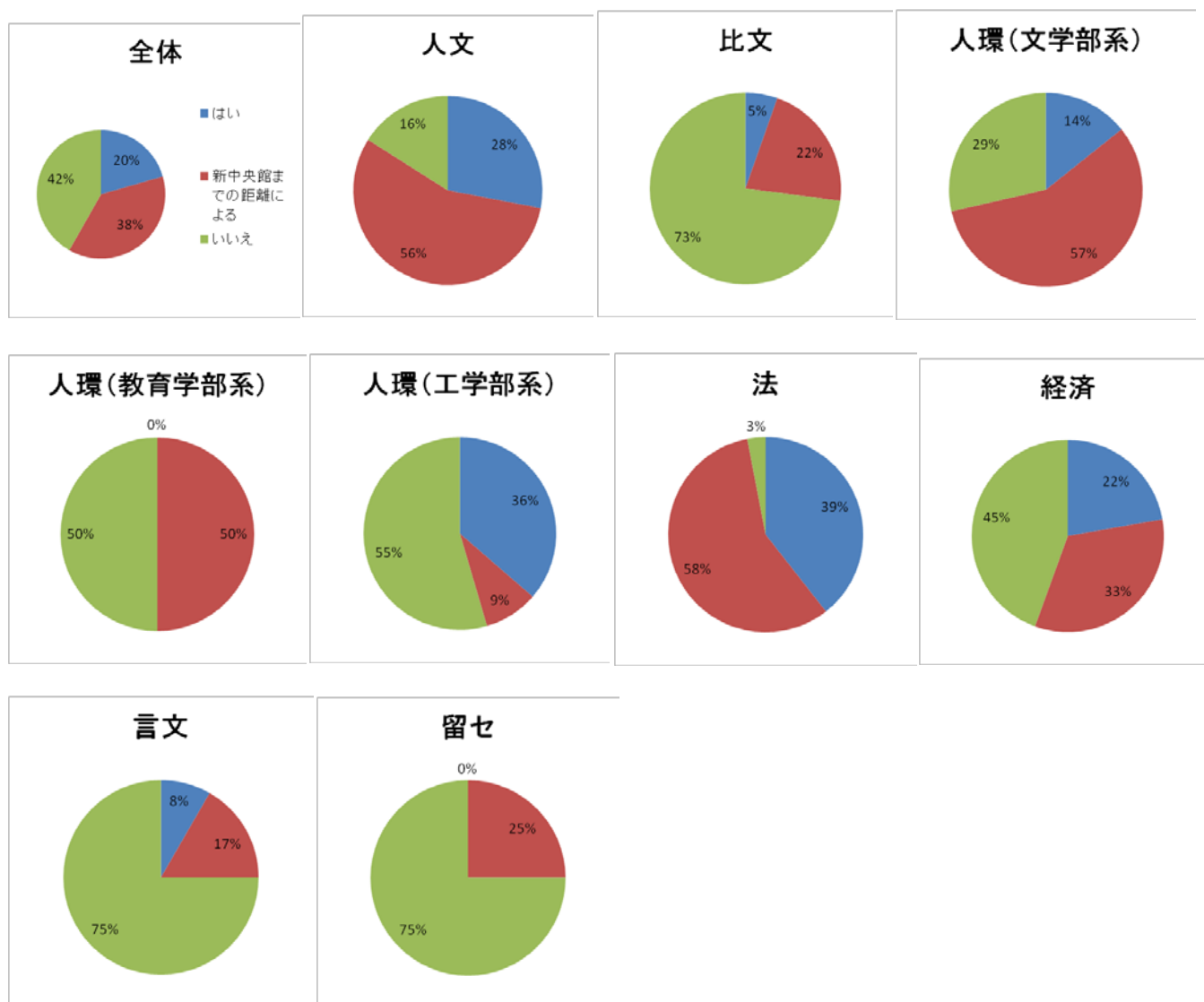
■項目毎の値を 100% になるように積み上げてグラフ化



2(2) 上記の(2)「貝塚文系地区書庫(文系合同図書室)所蔵の資料」が、移転後に新中央館に収蔵された場合、あなたの研究や教育に支障が生じますか？

- ・ はい
- ・ 新中央館までの距離による
- ・ いいえ

	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
はい	30	7	2	1	0	4	13	2	1	0
新中央館までの距離による	55	14	8	4	2	1	19	3	2	2
いいえ	61	4	27	2	2	6	1	4	9	6

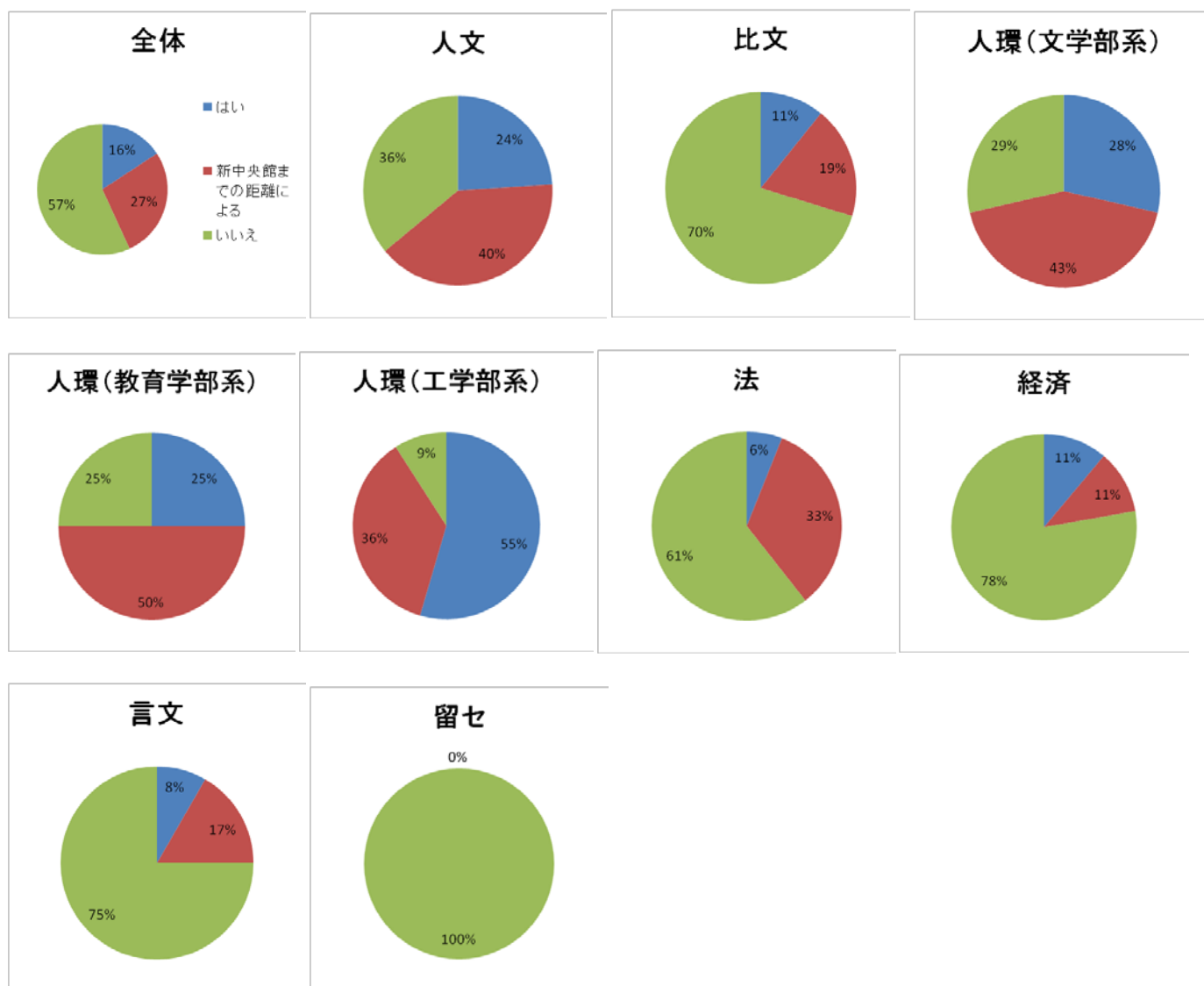


※2(2)以降の設問は、教員と大学院生の回答結果に大きな差がないため、別個に分析は行っていない。

2(3)上記の(3)「学科図書室所蔵の資料」が、移転後に新中央館に収蔵された場合、あなたの研究や教育に支障が生じますか？

- ・ はい
- ・ 新中央館までの距離による
- ・ いいえ

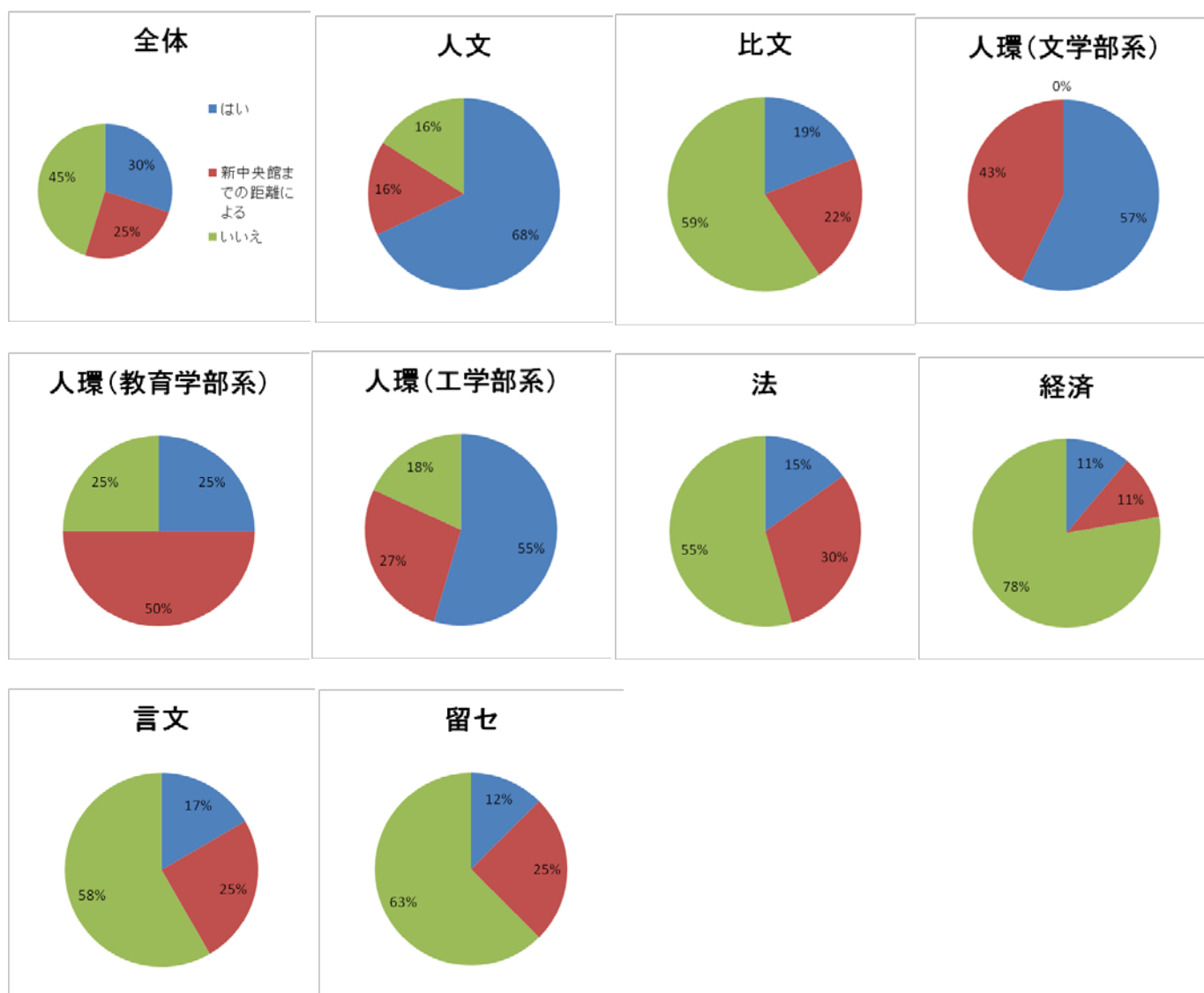
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
はい	23	6	4	2	1	6	2	1	1	0
新中央館までの距離による	40	10	7	3	2	4	11	1	2	0
いいえ	83	9	26	2	1	1	20	7	9	8



2(4)上記の(4)「講座等の研究室、共通室所蔵の資料」が、移転後に新中央館に収蔵された場合、あなたの研究や教育に支障が生じますか？

- ・ はい
- ・ 新中央館までの距離による
- ・ いいえ

	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
はい	44	17	7	4	1	6	5	1	2	1
新中央館までの距離による	36	4	8	3	2	3	10	1	3	2
いいえ	66	4	22	0	1	2	18	7	7	5

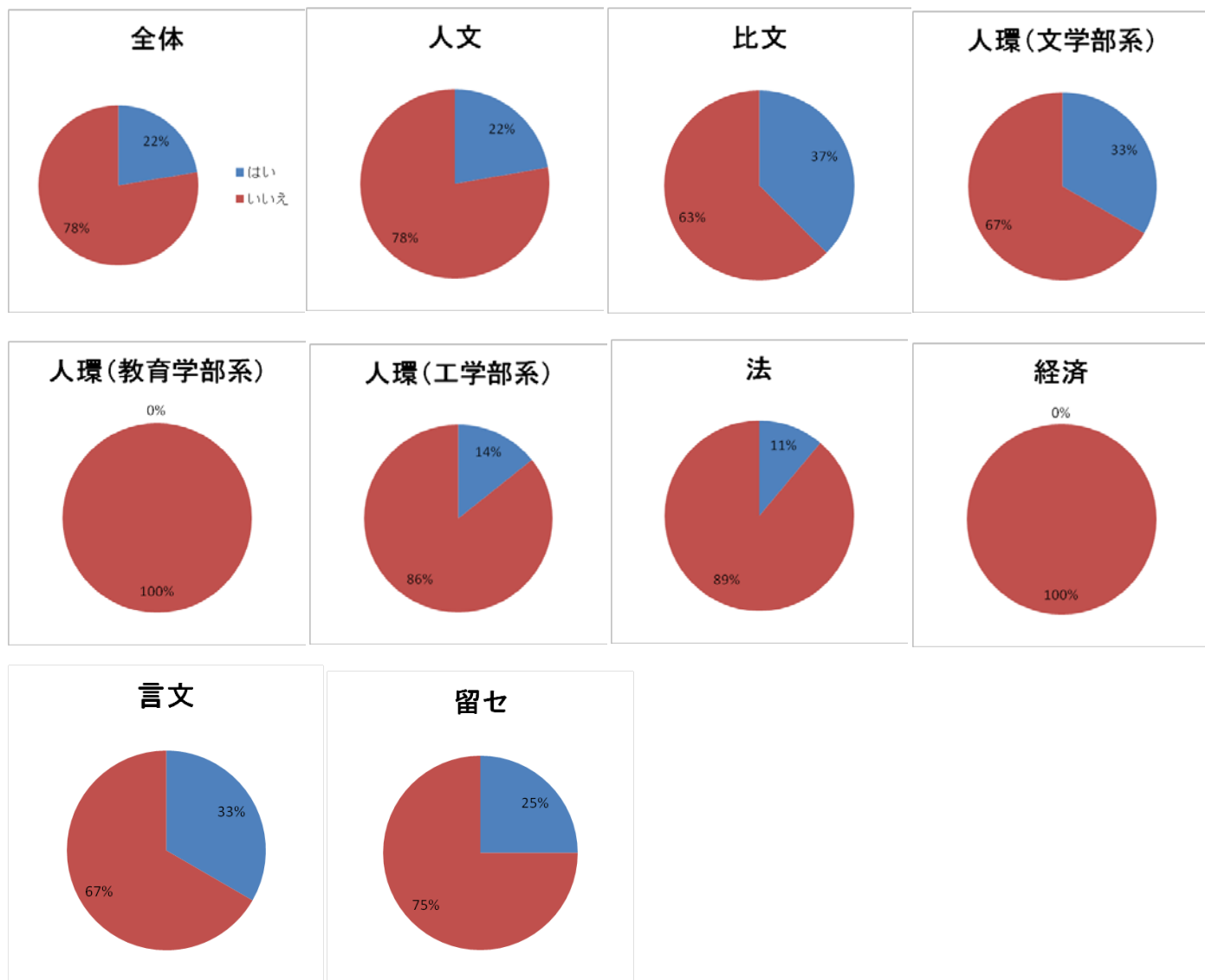


2(5) 直前の3つの質問で「はい」と回答された方へ
生じませんか？

新中央館が24時間開館していれば研究や教育に支障は

- ・ はい
- ・ いいえ

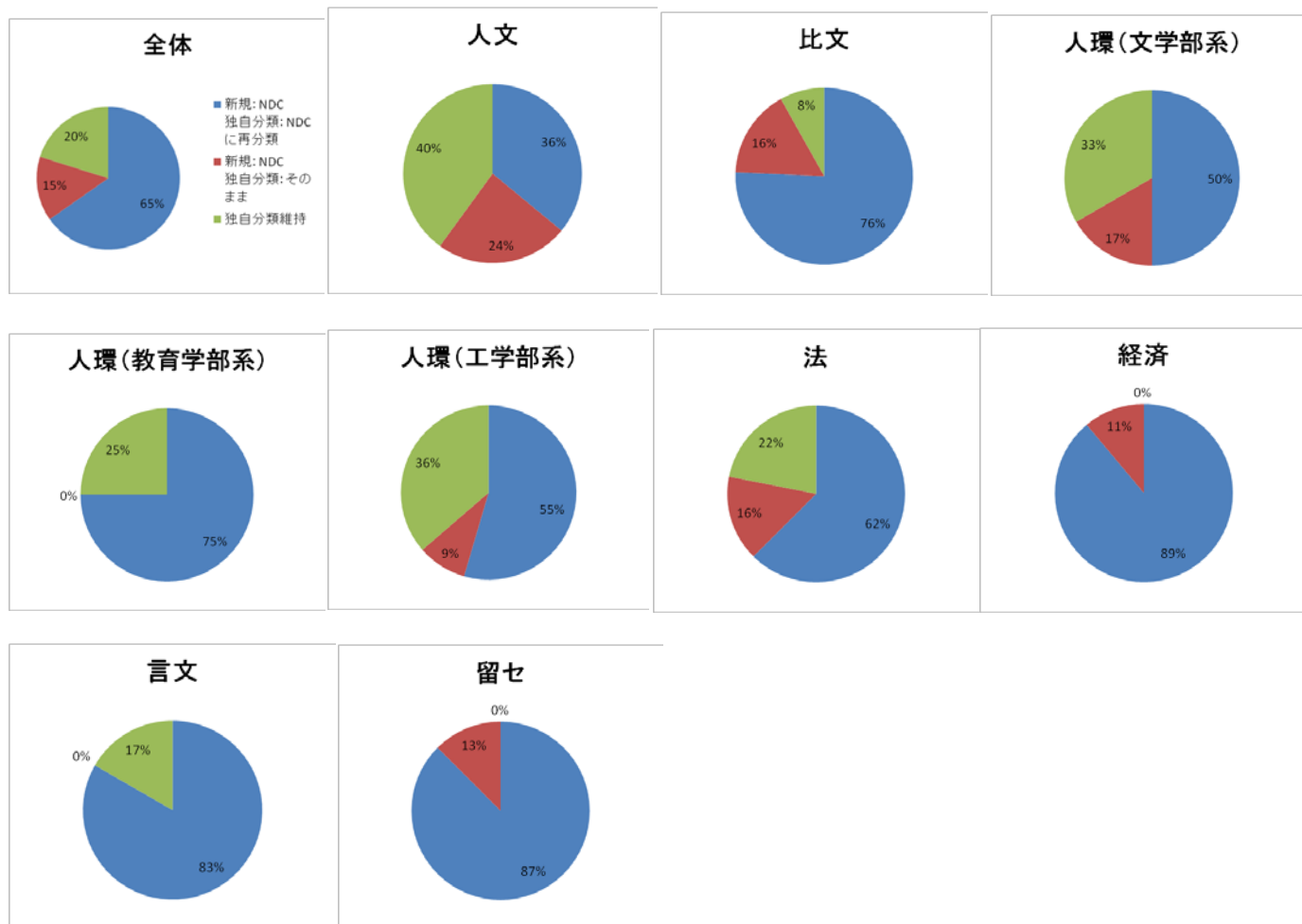
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
はい	17	4	6	2	0	1	2	0	1	1
いいえ	59	14	10	4	1	6	16	3	2	3



3(1) 図書の分類法と新中央館での資料の配架について、下記のどれが望ましいですか？選択肢よりひとつお選びください。（必須）

- ・ 移転後に新規に受入する資料は原則として NDC で分類する。現在独自の分類をされているものについては、今後段階的に NDC に再分類して再配架をしていくべき。
- ・ 移転後に新規に受入する資料は原則として NDC で分類する。現在独自の分類をされているものについては、移転後も分類はそのままとし、移転終了後の新規受入資料とはエリアを分けて配架する。
- ・ 各部局独自の分類体系は移転後も維持することが望ましい。

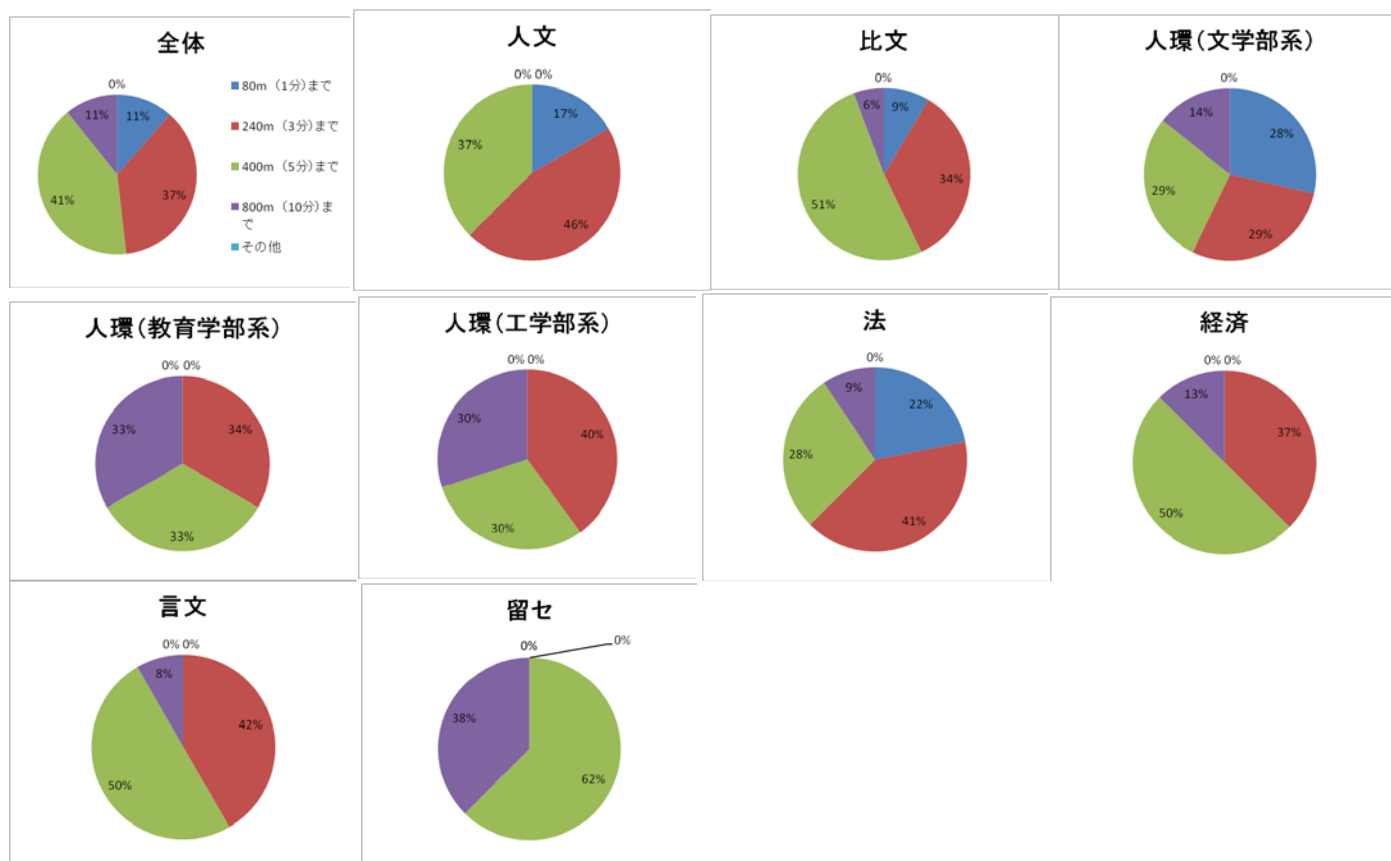
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
新規:NDC 独自分類:NDCに再分類	94	9	28	3	3	6	20	8	10	7
新規:NDC 独自分類:そのまま	21	6	6	1	0	1	5	1	0	1
独自分類維持	29	10	3	2	1	4	7	0	2	0



4. 新中央館へのアクセスについて 研究室から新中央館までの距離（時間）は、どれくらいまでであれば許容できますか？ ※キャンパス内の高低差については、エレベーターやエスカレーター等の移動手段が確保されているとします。

- ・ 80m（1分）まで
- ・ 240m（3分）まで
- ・ 400m（5分）まで
- ・ 800m（10分）まで
- ・ その他

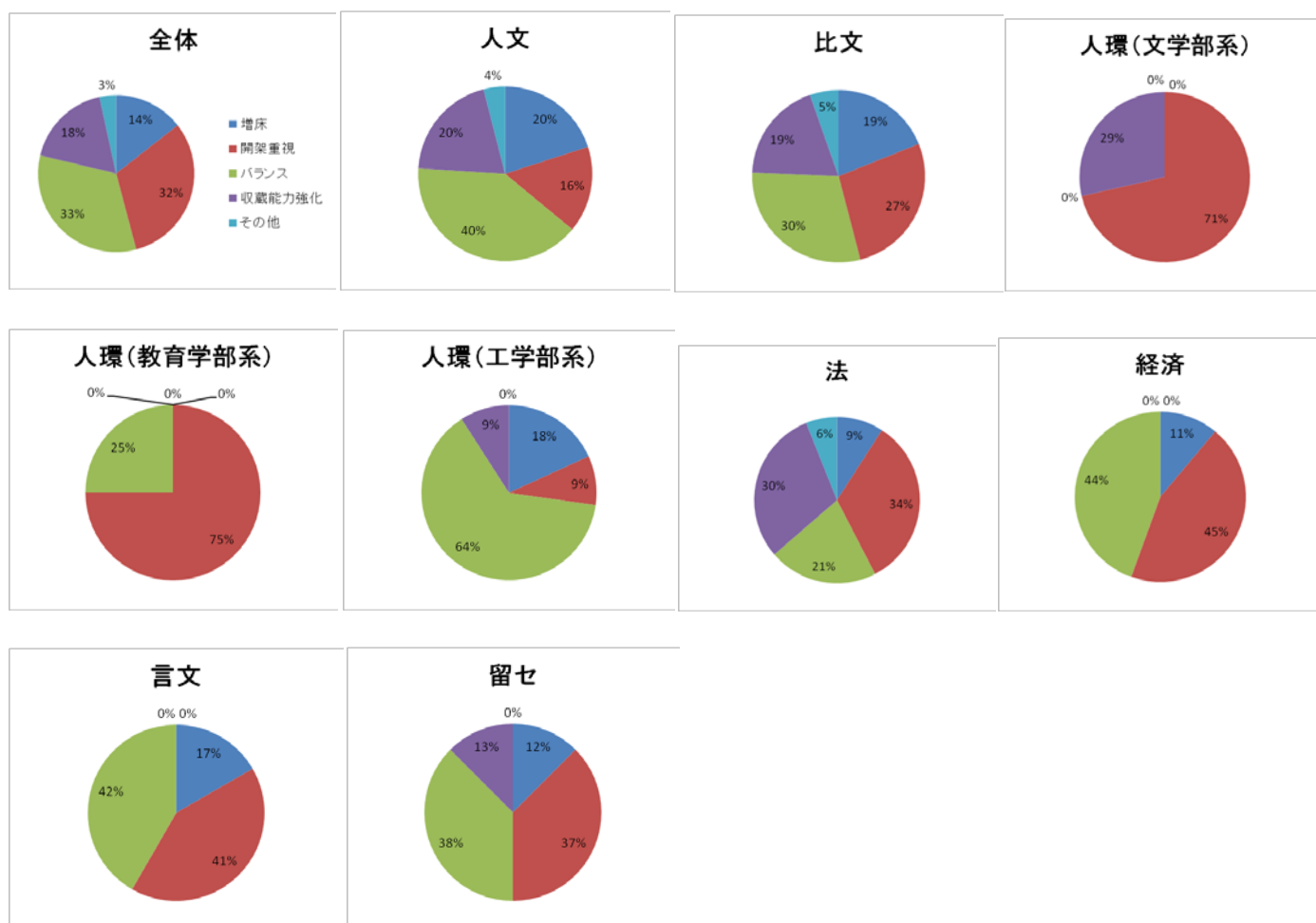
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
80m(1分)まで	16	4	3	2	0	0	7	0	0	0
240m(3分)まで	51	11	12	2	1	4	13	3	5	0
400m(5分)まで	57	9	18	2	1	3	9	4	6	5
800m(10分)まで	15	0	2	1	1	3	3	1	1	3
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



5. 新中央館における資料の収蔵方法について 新中央館の面積によっては、移転完了後に収蔵予定の資料を、すべて開架方式で配架することが困難となる場合があります。また、開架方式の資料を増やした場合、相対的に全体の収蔵可能冊数は低下します。上記のような場合、どのような対応が望ましいとお考えか下記からお選びください。

- ・ 各部局の面積を拠出して図書館の整備面積を増床して開架方式の資料を増やすべきである
- ・ 整備面積の範囲内で、できるだけ開架方式の資料を増やすべきである
- ・ 整備面積の範囲内で、開架方式と閉架方式の最適のバランスをとるべきである
- ・ 開架図書を増やすよりも、図書館としての収蔵能力の強化を優先すべきである
- ・ その他

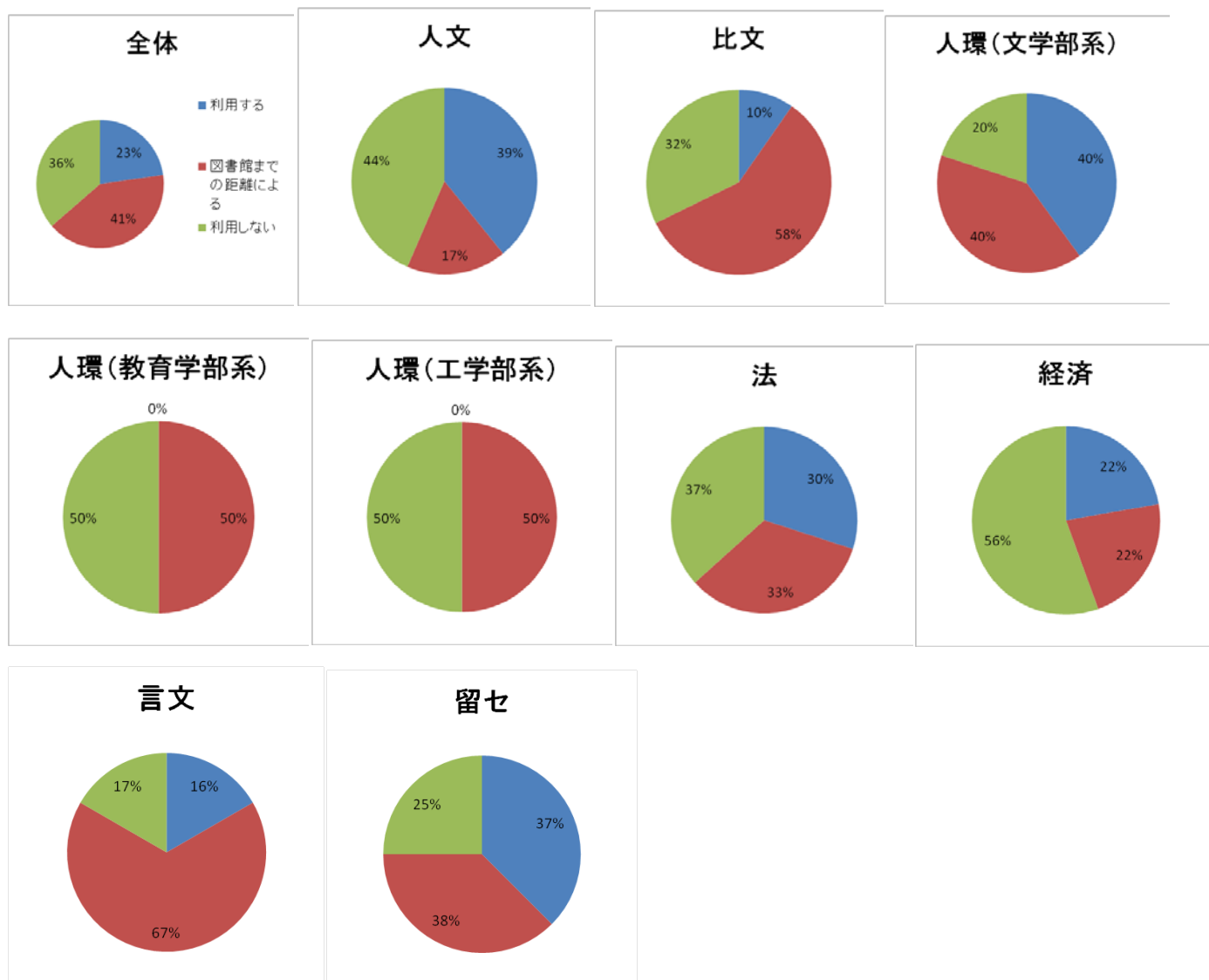
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
増床	21	5	7	0	0	2	3	1	2	1
開架重視	46	4	10	5	3	1	11	4	5	3
バランス	48	10	11	0	1	7	7	4	5	3
収蔵能力強化	26	5	7	2	0	1	10	0	0	1
その他	5	1	2	0	0	0	2	0	0	0



6. 図書館の教育目的での利用について (教員の方のみご回答ください) (1) 図書館内に講義室、ゼミ室を設けた場合に、利用しますか？

- ・ 利用する
- ・ 図書館までの距離による
- ・ 利用しない

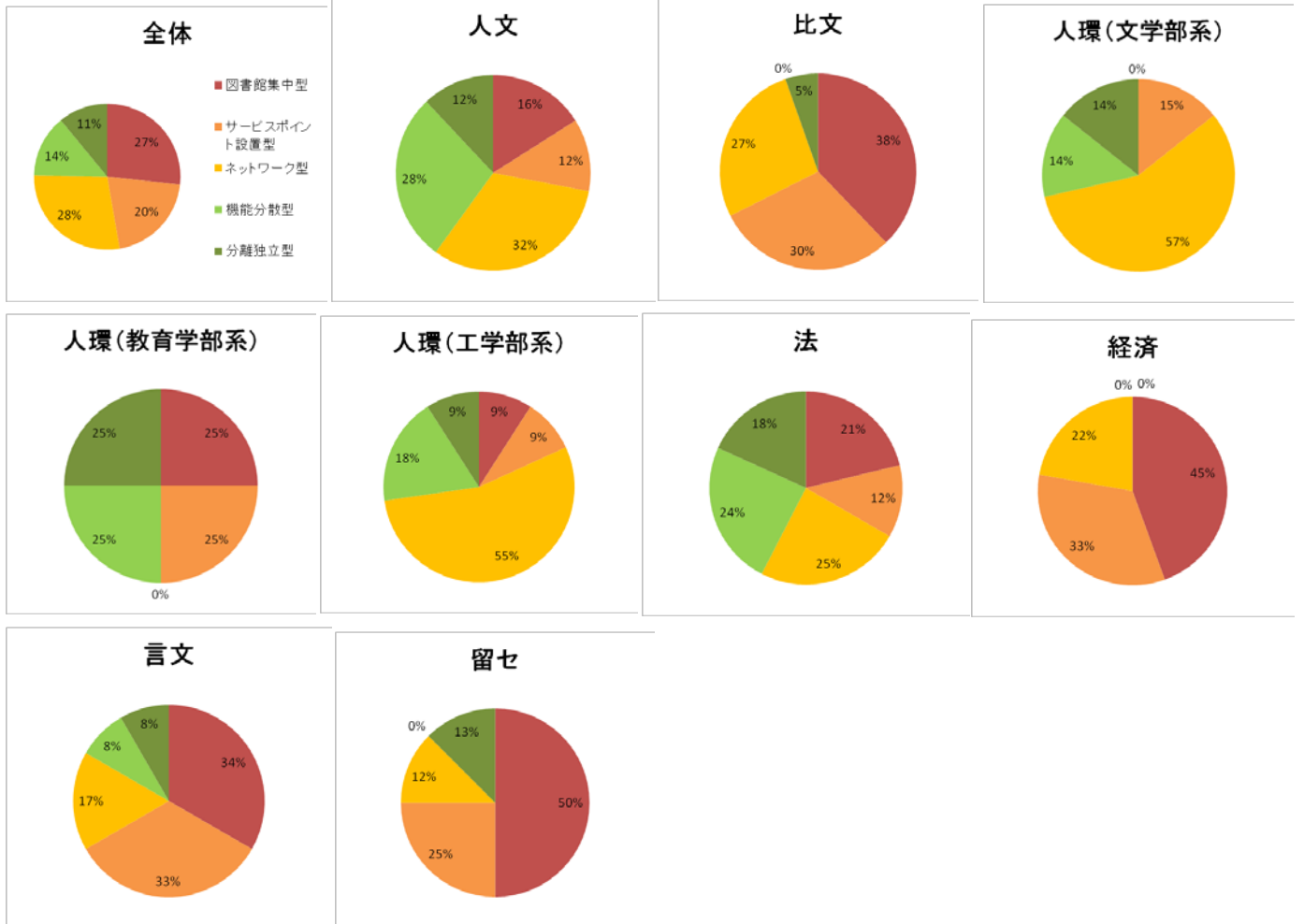
	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
利用する	30	9	3	2	0	0	9	2	2	3
図書館までの距離による	54	4	18	2	2	5	10	2	8	3
利用しない	48	10	10	1	2	5	11	5	2	2



8. マスタープラン 2001 において、伊都キャンパスでの施設配置の方針として、理系図書館と新中央館の 2 館を整備することが示されています。新中央館 WG ではマスタープランの方針のもと、下記の選択肢のうち図書館集中型を念頭において基本計画を策定しています。新中央館と部局とのあり方については、図書館集中型のほか、以下にあげた形態が考えられますが、皆様はどのあり方が望ましいと考えておられますか？下記からお選びください。

- ・【図書館集中型】現在部局の研究棟（文系合同図書室等）にある資料は新中央館に配架し、図書に関する各種のサービスも新中央館で行う。（面積効率は最も高い）：必要面積は、おおよそ 20,000 平方メートル以上。
- ・【サービスポイント設置型】現在部局の研究棟（貝塚文系地区書庫等）にある資料は新中央館に配架し、一部のサービス（図書の受け渡し等）を行うポイントのみ部局の研究棟に配置する：必要面積は図書館集中型よりやや少ない。
- ・【ネットワーク型】新中央館のほか、部局の研究棟にも一部書庫や資料室、閲覧スペース等を設置し、新中央館は各図書室と連携する。：必要面積は機能の分担程度によって大きく変わる。15,000～18,000 平方メートル程度。
- ・【機能分散型】研究に必要な資料は、新中央館ではなく主に部局の研究棟に所蔵する。新中央館は基本的な資料の提供や学習の場の提供等の機能を主に受け持つ。：必要面積は、おおよそ 12,000 平方メートル程度。
- ・【分離独立型】研究に必要な資料は、新中央館ではなくすべて部局の研究棟に所蔵する。各部局ごとに図書の運用と管理を独自に行う研究所型図書室を持ち、新中央館は基本的な資料の提供や学習の場の提供等の機能のみを受け持つ（面積の効率はもっとも低い）：必要面積は 12,000 平方メートル以下となる。

	全体	人文	比文	人環(文学部系)	人環(教育学部系)	人環(工学部系)	法	経済	言文	留セ
図書館集中型	39	4	14	0	1	1	7	4	4	4
サービスポイント設置型	30	3	11	1	1	1	4	3	4	2
ネットワーク型	41	8	10	4	0	6	8	2	2	1
機能分散型	20	7	0	1	1	2	8	0	1	0
分離独立型	16	3	2	1	1	1	6	0	1	1



自由記述回答

3. 資料の分類法について

2) 独自分類を維持すべき資料について、また分類法全般についてご意見がありましたらご記入ください。

設問3 2) 独自分類を維持すべき資料、分類法全般についてのご意見		
No	所属	コメント
1	人文	伝統的分類法(漢籍四部分類等)を有する資料については、収蔵方法場所等を含めて特別な扱いをすべきである。
2	人文	原則としてNDC分類による分類に賛成する。ただ、周知のように、図書は過去-現在-未来に涉って際限なく生み出されるのであり、固定したNDC分類が、将来に涉ってそれらの流動情況に有効に対応できるとは考えにくい。具体的には、中国古典関係書籍はやはり伝統的な四部分類法が最も有効で現実的であり、これをNDC分類によって920外国文学等に分類するのは学問研究上望ましくない。また、近年電子書籍等の新規書籍の分類の問題も生じている。これらの状況を踏まえて総合的に判断すると、図書分類については大原則としてNDC分類を容認するが、決してそれに固執することなく、図書の過去-現在-未来の変化を見据えて、ダイナミックかつ臨機応変に対応することが望ましい。
3	人文	古籍や戦前刊行資料については独自分類が望ましい。
4	人文	文系のいわゆる古典資料については独自分類が必要かつ有用
5	経済	「〇〇文庫」等、独自の分類がふさわしいものは、これを維持していただきたい。
6	人文	国文や国史の書物は、西洋的な(?)十進法の分類では整理しきれないものが多い。分類体系は学問体系とも連動しており、単純に同一化できない。
7	人文	非常によく利用する資料集、教科書、参考文献等は、分類に関わらず、利用に適した配架を考える必要がある。
8	人文	新文系図書館ではこれまでの文系図書、特に文学部図書のつかいにくさを改善する必要があります。他の人に返却を頼めない、今の文学部の図書のあり方を根底的に方法を変える必要があります。新文系図書館では、新購入の本はすべて新分類にするのは、もはや議論の余地がないほど当たり前のことです。問題は、これまでの旧分類の蔵書をどうするかです。素人が探し出せない今の文系図書のあり方をどうするか、です。一度旧分類で分類したものを日本十進分類法に移行させるのはあまりに莫大な時間と費用と労力がかかりますので、全部でも一部でも、分類ラベルの付け直しによる移行の可能性を考えるのはやめた方がよいです。旧分類の本は旧分類のまま置いておくしかないでしょう。新文系図書館では、旧分類の本はもう増えませんが、それを利用して、永遠に位置を固定して、すべての旧分類蔵書に新たに7桁の通し番号を付けてしまうべきです。旧分類の本は書庫に並んでいる通りに、すべての本に対して、左から右へと、1冊に1番ずつ番号をつけ、全体の通し番号を1番から150万番まで、つけてゆきます。その通し番号を全部の本の背表紙に貼り付けて、素人でもその通し番号の数字だけを追いかけてゆけば、必ず本が見つかるようにするのです。そうすれば、素人(アルバイトの人)でも旧分類の本を簡単に短時間に見つけたり、返したりすることが可能になります。新文系図書館で、旧分類の本を今のままにしては、「文献へのアクセス時間と返却時間を短くする」ということが不可能です。大切なのは、位置を固定して動かさず、新たにすべての本に投資番号をつけて、それで探せるようにすることです。つまり旧分類の本には現在の分類ラベルと同時に、通し番号のラベルも併用することになります。
9	人文	専門分野がセットになって配架されていないということでは、総記・雑誌・研究書・資料がバラバラになっているということになり、使用ごとに、つまり毎日これらを揃えて確保しつづければならず、はなはだ不便であるばかりでなく、他の利用者にも著しい迷惑をかけ、指導にも困難が生じるので独自分類にしてほしい。
10	人文	独自の分類については、それぞれに研究に必要な理由のもとに分類されているものであるもので、画一的にNDC分類すべきではない。また、コンピュータ検索が一般化された今日においては、NDC分類そのものに存在意味が無くなってきている。
11	法	Book for allの理念に基づき、学部・学科・講座等の個別利害を越えて、幅広い利用者の便を考慮すべきと考えます。”
12	比文	特定分野をカバーし集中配架している図書群を敢えてバラシテ配架し利便性を低下させる必要もない。
13	比文	分類方法は統一されているほうが望ましいと思うが、各部局の事情もあると思うので、配慮するに値すると判断されれば、独自の分類体系を維持してよいと考える。
14	留セ	分類法について、新しい領域、新しく学習必須となる領域が出てくるといいますので、柔軟に対応するために、定期的に分類の在り方を見直す必要があるのではないかと考えられます。
15	比文	文系合同図書館の書誌が利用しやすくなるよう整理の仕方を希望いたします。

※回答者個人の特定が特定される可能性のある記述は一部表現をかえて掲載した。

6. 図書館の教育目的での活用について

2) 講義室、ゼミ室にもとめる機能について、ご意見ををお願いします。

設問6 2) 講義室、ゼミ室にもとめる設備について		
No	所属	コメント
1	人文	図書館の二大機能は、勉強する場であることと、本が置かれていること。100年間耐えうる図書館にするには、基本機能をしっかりさせる。いろいろ的教育的な追加的な機能を考えても、10年20年経てば、不要になったりして消えてゆくものだ。100年経った時に変わっていないものは、基本機能だけだ。基本機能以外は、時代とともにどんどん変わってゆく。そのことを考えた自由度の高い設計にすべきだ。
2	比文	教育目的の利用として、私はレポート課題に図書館の配架箇所を提示して、そこから本を探し出して読むように指導している。ゼミ室をなぜ図書館に設けるのか、よく理解できない。もしも設置するならば、全学教育や学部教育の教室の設計部門と相談をしたうえで、役割を明確にした部屋としてほしい。図書館の側から、ある種の教育プログラムを提示し(Eジャーナル検索・利用方法に関するものなど)、それを実施するためのゼミだというならば、ある程度理解できる。教員個人の授業は、本来の教室の方で実施すべきだろう。
3	比文	スクリーン、プロジェクタ、会議用パソコン、ポインター
4	人文	:10名収容の講義室5室 希望する設備:スクリーン、プロジェクタ
5	法	10~20名くらいのゼミ室で、スクリーンとプロジェクター完備
6	留セ	10~20名収容のゼミ室数室、希望する設備:スクリーン、プロジェクタ、PC
7		10名収容の講義室 希望する設備:スクリーン、プロジェクタ
8	言文	10名程度収容のゼミ室を3つほど。20名程度収容のゼミ室を2つほど。スクリーン、プロジェクタは必須。
9	言文	10名程度収容の小講義室と20~25名程度収容の中講義室の両方があることが望ましい。部屋数は講義室に利用できる面積によるが、それぞれ複数あればなおよい。希望する設備:椅子やテーブルは固定式や長机ではなく可動式(テーブルとして使える折り畳み式のボード付の椅子)がよい。プロジェクタ、スクリーン、有線LAN。
10	留セ	15名ほど収容の講義・セミナールーム 5-8室希望する設備:スクリーン、プロジェクタ、ホワイトボード
11	比文	200名規模の講義室5部屋:スクリーン、プロジェクタ
12	留セ	20名収容の講義室5室、希望する設備:スクリーン、プロジェクタ、ホワイトボード
13	人文	20名収容のゼミ室、スクリーン、プロジェクタ、
14	人環(文)	30人程度が収容でき、机等のレイアウトが自由なゼミ室があると大変便利とは思いますが、これを設けることによって、収蔵可能な冊数が減少するのであれば、不要です。
15	人文	30人程度利用可能なゼミ室。パソコン・スクリーン・プロジェクタの設置。
16	人環(文)	30名収容のゼミ室1室
17	人文	30名程度まで収容できるゼミ室スクリーン、プロジェクター、大型デジタルディスプレイ、DVD/ブルーレイ再生機、
18	比文	4名程度の部屋は複数(15部屋程度)ほしい。あと、15名ほど入れる部屋が1, 2あるとなおよい。
19	言文	8名収容の講義室
20	比文	AV機器、スクリーンなど。ゼミ室の収容人数は、20名ほど。
21	比文	スクリーン、プロジェクタ
22	法	スクリーン、プロジェクタ
23	言文	スクリーン、プロジェクター、CD-ROM再生用などのオーディオ・ビジュアル機器
24	比文	スクリーン、プロジェクタの設備
25	留セ	ゼミ室の規模:10名~20名程度だったらよく利用すると思う。
26		プロジェクタ
27	法	プロジェクター設備を備えた20名規模のゼミ室が数室あれば、学生の図書館利用も増えると思います。現在、箱崎キャンパスでは自主ゼミやサブゼミ(ゼミの準備作業)を生協などで行っていることも多くあるように思います。
28	法	ワークショップ形式ができる移動式の机、ホワイトボード
29	経済	演習テーマに関係した文献の配置
30	人文	演習や場合によっては講義にも利用したい。
31	比文	希望する設備:スクリーン、プロジェクタ
32	経済	希望する設備:スクリーン、プロジェクタ、十分な大きさのホワイトボード
33	人環(文)	希望する設備:スクリーン、プロジェクタ、無線ラン
34	法	机が動かせる部屋が好ましい。
35	人文	現在の貝塚キャンパスの使用実態から見ても、伊都キャンパスの一般講義棟・演習棟は使用が集中し、たちまち手狭になることが予想される。新中央(文系)図書館内にも、可能な限り講義室・ゼミ室等の設置を望む。30名6室・50名4室・100名2室・200名1室、いずれもスクリーン・プロジェクタ設置。また教室の半数は可動椅子机が望ましい。

設問6 2) 講義室、ゼミ室にもとめる設備について		
36	言文	現在の大学院のゼミ室が確保される場合はそこで行うこともできるが、もしそのような余裕がなくなった場合は、博士論文の審査や、論文指導、さらに院生および外部の先生と行う研究会に利用できるような部屋が必須である。
37	人文	参考図書等の充実が絶対不可欠。これらがないと、OA機器があってもゼミ室としてはまったく無意味である。
38	人文	大きなものは一つでよいと思うが、5～10人で利用できる演習室は現行の倍くらい(10部屋くらい)あると助かる。現行では予約が多くて利用できない場合がある。
39	人環(工)	大規模で設備の質の高い部屋
40	比文	文系全体での希望数にもより当然増減があると思いますが、とりあえず30～50名収容の講義室3室。20名収容のゼミ室3室。全学教育で備えている設備は標準的に備えてほしいです。

7. 図書館の基本的な施設/設備以外に、新中央図書館に必要とお考えの施設/設備がありましたらお聞かせください。

設問7 基本的なもの以外に、新中央館に必要とお考えの施設、設備等についてご意見		
No	所属	コメント
1	比文	基本的機能を完全に満たすことを最優先にし、他の施設で賄うことができるものは極力、図書館内に取り込むことを避けるべきである。
2	経済	そもそも図書館内にゼミ室などを設ける必要があるのだろうか。
3	比文	機能を寄せ集めるのではなく、図書館の基本的なコンセプトを確立し、それにそった施設整備を行って欲しい。私が訪れた20ほどのヨーロッパの大学図書館には、誰も見ない掲示板、特定の利用者しかつかえないようなロッカーなどは(ほとんど)ありませんでした。大学図書館で、学生や教員がどのように行動するのか、その行動を分析すれば、おのずと施設設備の方針は定まるのではないのでしょうか。利用者におもねるのではなく、「九大の図書館は、このように利用して欲しい」、「このように利用すれば、世界のどの図書館にもまけない情報の利用が可能である」、というメッセージを出して欲しい。
4	人環(文)	館内閲覧室(貴重図書などを閲覧できる受付・ロック付のスペース)
5	比文	大学院生用の学習スペース。博士論文執筆中の院生(＝おもに、文系)用に、個人用の研究机があるといいのではないだろうか。図書館から大量の書籍を移動せずにすむので。
6	比文	視聴覚室、教員専用閲覧室、校費専用コピー機
7	比文	中央図書館にある研究個室をよく利用します。同じ様な個人用個室が新中央館にも設置されることを希望します。
8	人文	語学の予習などで発声しても隣室の邪魔にならないような研究個室が必要。
9	比文	映像資料を上映できる視聴覚室
10	言文	ネットワークのソケットを多数用意したサロン
11	言文	プロジェクタ
12	人環(教)	学生同士のための連絡掲示板があれば情報提供しやすい。
13	人文	分かりやすい地図(資料、洋書、雑誌などどこにある)
14	人文	10×10%程度の資料なら十分に展開できるようなスペース
15	法	24時間オープンが良い。
16	留セ	調べもので疲れた時に少し休息の取れる部屋(休憩室)
17	比文	ともかく目に優しく、明るく作ってください。各机に、なるべくスタンドを設置してください。現在、伊都の図書館は節電のためなのか、閲覧室が一部、暗いです。眼に悪いです。箱崎の図書館も、暗いところがあります。新しい中央図書館も、明るさなどの基本的設備をきちんと作ってください。デザインなどはどうでもいいです。
18	人環(工)	展示空間、プレゼンテーション空間、カフェなどのコミュニケーション空間
19	比文	コミュニティカフェのようなものがあるといい。学生、教員の枠を取っ払った語らいの場がほしい。今はエレベーターか階段のみが上り下りの手段である。エスカレーターもつけてほしい。出入り口のゲートは今以上に多くしてほしい。
20	言文	ゼミ室に加え、アメリカの大学などにあるように、学生数名が集まって議論し、課題について考えることができるような部屋が10室以上はほしい。防音設備をつけておけば、外には聞こえず、学生同士が交流する場にもなり、そうすることで研究・活動が活発になる。また、調査のために、アンケートおよびインタビューを行い、録音・録画をすることのできる設備として利用させてもらいたい。
21	人文	海外から図書館だけを利用する研究者が24時間研究できるような図書館にする。また図書館で毎日勉強するという生活スタイルを学生がもつことを支援する。図書館に5時間から10時間いるようなヘビー・ユーザーのための設備をそなえる。食事室、頭をリフレッシュさせるための30分ほどの仮眠が取れる仮眠室。24時間体制。長期貸出ロッカー。簡単なシャワー室。文系にとっては、図書館は学問の現場そのものであり、図書館の滞在時間が違う。長い滞在を快適にする様々な工夫がされねば、文系図書館とはいえない。ノーベル賞級の論文が、図書館に通いながら書けるようにする。情報サロンとかAVコーナーとかは1990年頃の発想なので、今後はタブレット型の情報端末を配るだけで十分。
22	人文	現在の中央図書館視聴覚ホールや留学生センター国際ホールを合併したような国際会議開催が可能な大ホールの設置を望む(これは図書館内だけでなくキャンパス内に設置が保証されれば良い)。貴重図書の管理保全を図るための貴重図書室や消毒室等が必要である。
23	比文	地域住民へ開放する講座やシンポなどを含め、地域との交流イベントを実施できる多目的ホール(できれば大ホールと小ホール)はぜひ必要だと思います。小ホールのほうは、ゼミ室と兼用で使える仕様になっていれば、兼用でも良いと思います。
24	人環(工)	飲食・通話可能なスペース。
25	法	飲食のスペースと雑誌・新聞スペースの充実
26	人文	貴重本の閲覧室喫茶室
27	留セ	喫茶室／軽食堂、十分な閲覧スペース(机＋椅子)
28	比文	ラウンジ

設問7 基本的なもの以外に、新中央館に必要とお考えの施設、設備等についてご意見		
29	言文	リフレッシュルーム(これは基本的? ;おいしいコーヒーの飲める)、展示スペース、講演会会場、ブリベードの公費コピー機(これはぜひ!)、製本機、観葉植物。
30	人文	少なくとも、大きな会議場、展示会場、レストラン、貴賓室は不可欠である。博物館と文書館も合体すべきである。
31	留セ	談話室、飲食できる部屋、軽食がとれる喫茶店
32	法	雨天でも濡れずにアクセスできること。
33	人文	文系研究棟と講義棟、そして図書館とは地下道、もしくは1階フロアーを完全につなぎ合わせて一体化してほしい。図書資料の保全のために、雨の日も傘をささずに各棟を行き来できるようにすべきである。特に伊都キャンパスの場所は晴れの日も強風が襲う。図書資料をいちいち「屋外」に持ち出すことは好ましくありません。

9. その他、新中央館や現在の図書館についてご意見がありましたらお聞かせください。

設問9 その他、新中央図書館や現在の図書館についてご意見		
No	所属	コメント
1	人文	現在の図書館や新中央館の使いづらさを徹底的に分析することで、新文系図書館は、使いやすいものになると思います。提言されたさまざまな機能に対して、どのような優先順位をつけて作ってゆかが物作りにおいては大事です。きちんと優先順位をつけて、図書館として本当に大事な機能をどこまで大事に出来るか、基本性能の向上にどこまでこだわれるかが、よい図書館と悪い図書館を左右する決め手になると思います。基本案というものは、並列的で総花的なプランになってしまいがちなものです。しかし本当に立派な仕事というものは、単に八方美人であることから生まれません。コアの基本性能にこだわることから生まれるのです。どうかがんばってください。
2	人文	新中央館は、単なる図書館ではなく、大学全体の研究、教育、社会貢献、広報等の基本的インフラであるべきであり、図書館や文系のみならず、大学全体で構想すべきである。
3	法	部局ごとの図書館管理の場合、他部局の学生・院生の利用が非常に不便です。ですので、形式的にも各部局から独立した図書館部局が管理できるようにしてほしいです。
4	人環(工)	研究に使用する本の多くは専門書で利用頻度が高いため、中央図書館に所蔵されても意味がなく、手元においていつでも直ぐに見られる状況でないと研究になりません。一方で年に数回は他分野の学会誌や一般的な数学書を見るために中央図書館を利用しています。そのため、専門図書が充実した部局の図書館・各分野の論文集や共通で利用できる数学書等を幅広く集めた中央図書館という役割分担を希望します。
5	法	文系図書館は維持すべきだと思う。本当は、文系全体が、伊都に行かず、箱崎のままのころほうがよい。
6	言文	所在確認と取り寄せ機能が充実していれば機能分散型や分離独立型でも実質的に困ることはないとおもいます。また災害時には分散型のほうが被害が少ないような気がします。ただ、管理面でむずかしくなるでしょう。そこにいけばたいいものはある、というほうが、やはりありがたいように思います。
7	言文	九大に着任して、中央図書館の施設と蔵書の貧弱さに愕然としました。文系図書室が分類を放棄して、研究室ごとに本を雑然と並べ、しかも飽和状態であることに絶望しました。他大学では旧制高等学校から新制大学に移行した頃、あるいは1970年代頃までに、図書館が統合され、分類体系も統一されたのに、九大ではいまだにバラバラであるのは本当に残念なことです。今回の新中央館建設を機に、恥ずかしくない図書館を作りたいと思います。そのためには各部局のエゴを排する決断が欠かせません。本来、図書館にあるべき蔵書が、部局図書室や研究室に散在していることによって、教員や院生の研究の視野が自分の専門分野に閉じこもり、他分野へ視野が広がらないのは九大の研究者の弱点になっているように思いますが、その原因として現在の図書館のあり方が関係しているように思います。もう一つの要望として、図書館は電子化を進めるよりも、まず「もの」としての本を物理的に手にとって見られる場所であることを最優先としていただきたいと思います。電子化は九大図書館でなくても、海外や他機関・民間のサービスを、居ながらにして利用できます。九大経由で電子情報を得る必然性は高くありません。とりわけ、自分の専門分野以外の本については、図書館で実物を見ることによってしか、関心を持つきっかけがありません。知らない分野のことを「検索」することはないからです。そのためには、やはり図書館にたくさんの本がそろっていることは、今後も変わらず重要だと考えます。
8	人文	研究・教育における図書館所蔵資料の重要性は部局により違いがあると思いますが、少なくとも人文学では決定的です。本学の人文系の水準は全国トップクラスにあると思いますが、それも図書資料が「手元にある」良好な環境であるからこそであり、多くの他大学の教員・学生がうらやむところです。これを捨て、図書を中央図書館に集中し、閉架方式を中心とする運営が行われると、その悪影響は必至です。教員は不便を耐え忍んでも通うでしょうが、学生は確実に図書から遠ざかるでしょう。日々の研究室生活のすぐ脇に図書があり、日常的に触れるなかで、素養や学問のセンスがみぎけるのですが(偶然目にとめた図書が大きな転機になることもあります)、その機会を奪うことは学生の質に直ちに影響してくるでしょう。学問外の制約がいろいろあるとは思いますが、以上の点をよろしく御勘案のうえ善処をお願いします。
9	言文	現在、文系の各講座に配架されている図書は利用しにくい。全て中央図書館に配架するのは問題だと考えるが、兎に角九大内の教員・学生が利用しやすいようにしてもらいたい。現在、文系の図書の利用が難しいゆえに、自分の部屋にない本や雑誌が必要な場合には近隣の大学を利用している。自分の大学よりも他大学の方が本の借り出しがしやすいというのはかなり問題だと思う。上記のネットワーク型がよいと考えるが、その場合必ず他部局からの本や雑誌の借り出しで随時できるような仕組みにってもらいたい。講座が本を囲い込むようなことは絶対にやめてもらいたい。そうなるくらいなら、「サービスポイント設置型」の方がよい。

設問9 その他、新中央図書館や現在の図書館についてご意見	
10 法	現在、研究室貸出になっている資料はアクセスが悪いので、集中管理してほしい。雑誌はバックナンバーが抜けていることが多いので、教員の研究費ではなく、購入のポリシーを決めて、大学として定期購読をして欲しい。図書の分類や配架があまりにばらばらなので、統一してほしい。
11 言文	現在他部局の書庫にある資料は利用がとてもしにくい状況であり、部局や資料によっては入手に時間がかかりすぎたり閲覧さえ困難（場合によっては不可能）だったりする場合がある。また、同じ資料（特に学術雑誌や専門書）が複数の部局に所蔵されていることがあり、関係部局が伊都地区（イーストゾーン）に移転後もこのままでは経費が無駄に使われることになる。したがって、部局ごとの資料は、辞典事典等のレファレンス的なもの以外は、原則としてすべて新中央館で所蔵し管理すべきである。
12 留セ	教員の多くは、図書館に籠って1日過ごすということができなくなり、短時間（1時間あればよいほう）で書籍を見て回らなければならない状況です。一言でいえば、図書館を利用する時間がほとんど持てないという状態ではないかと思われます。この点を考慮して、文系と理系の図書館は別が良いし、それぞれのゾーンの中央に位置するのがベストと思います。また、図書館内は、やや古い様式（西洋建築風）の内装にした部屋があるのがよい。その周辺は、木々に囲まれ、窓外に目をやると、季節が感じられる景色が見えると、目の疲れも癒されます。
13 比文	図書館までの距離は、使用頻度に大きく影響すると考えられる。距離が長い場合は、学内配送サービスの充実などにより、図書館に出向く手間を省く努力を切望する。
14 法	新図書館の設計につき、様々なご検討をいただき、大変有難く存じております。小生は、これまでの間、複数の大学図書館（海外を含む）を利用して研究を行ってきました。その経験から、研究を遂行するうえで最も重要なのは、研究室と図書館との距離の近さであるとの実感を有しております。欧米でも、多くの大学において、研究に必要な資料は研究室から1分ないし3分以内の場所に配架されている恵まれた状況が提供されております。新キャンパスでの図書館設計におきましても、九州大学が世界の研究の拠点としての自負を保ち続けることができますよう、かわらぬご配慮を賜ることができれば幸いです。
15 人文	・休憩室や喫茶室を大幅に本格的に整備して欲しい。新中央館の最上階を喫茶レストランとして設計してはどうか。・現中央図書館のビデオ室は余りにも貧弱。新図書館では視聴覚設備を本格的に導入して欲しい。・新中央館と文系部局の建物が別棟になる場合は、連絡通路に雨よけの屋根設備が必要である。・伊都キャンパス全体もそうであるが、新中央館も地域コミュニティの拠点となるのが期待される。一般市民も利用しやすい環境作りにも配慮することが望ましい。近くに設置されると聞く大学博物館とも連携して、貴重図書や文物を常時或いは定期的に展示できるスペースを確保してはどうか。現在の中央図書館2階閲覧室横の僅かな展示コーナーを大幅に拡張した形である。
16 人文	できれば、バス停の近くなど、交通の便がよいところがいいと思います。
17 人文	伊都キャンパスは晴天の日も強風が問題である。文系教員の研究室および学生の研究室と新中央図書館とは、「屋根付き・壁つき」の通行路を建設してほしい。
18 法	研究棟と新中央図書館は、できるだけ近接して配置し、少なくとも雨に濡れないで移動できる構造としてほしい。もしこうした条件が満たされないのであれば、現状程度の文系合同図書室を維持すべきである。理系と異なり、図書館の使い勝手が研究・教育において死活的な重要性を持つことを重々認識していただきたい。
19 法	文系キャンパスから新中央館までの物理的な距離よりも、図書の研究室貸出の方法の方が、これまでの法学部に関係する運用に慣れた者にとっては重要であるように思います。現在の中央図書館の蔵書を借りる場合と同様に、長期の研究室貸出ができないのであれば、研究遂行上、とても不便です。この点、蔵書管理方法として工夫をして頂きたいと思います。他方で、記念論文集など学生も使用頻度が高い基礎資料は、研究室持ち出しもできない禁帯出としてもらうなどの措置も必要かと思います。
20 人文	・理学系が移転しても、現中央図書館の体制を縮小しないでほしい。・最新の学術雑誌は現状通り各研究室に届けてほしいが、新しい図書は研究室に届けるのではなく、図書館で集中管理していただいた方が好都合である。・特別貸出し（3か月）は存続してほしい。・文系合同図書室をできれば365日開館してほしい。（日曜は午後からでも構いません）・現中央図書館の航空機騒音対策は不十分。二重窓化を推進してほしい。（夏に省エネのため窓を開けていたら二重窓の意味はない）・現中央図書館の会話可エリアは広すぎて、静寂な環境を圧迫している。・文学部は自前の図書館を棟内に設置し24時間利用できた方が望ましい。・年末年始の休館日が長すぎる。
21 留セ	伊都分館では、授業や研究などの目的で教員対象に書籍の「長期貸出し」を実施していますが、このサービスを中央図書館においても提供してほしいです。極力希望します。
22 法	特別貸出など現在の貸出態様を維持してほしい。
23 比文	各教員の研究室にある資料は、その研究室に所属する学生にとってはとても利用しやすいものです。優遇されてしかるべきだと感じます。しかし、他研究室のものを利用したいときに、手続きが面倒だという印象をもちます。一長一短で難しいかとは思いますが、少しでも改善策が練られればと思います。

設問9 その他、新中央図書館や現在の図書館についてご意見		
24	法	可動式書庫でもよいので、開架書庫をできるだけ確保すべき。閉架が増えるならば、自動化も検討すべき。図書館集中型のためには、部局・講座単位に拘る部局にはペナルティを、拘らず中央図書館集中に協力した部局にはメリットをそれぞれ与えることで、インセンティブを促す方法もあろう。
25	法	本を実際に手に取れるように、開架書庫の充実が望ましい。教員、学生ともに、専門外の図書へのアクセスを容易にするため、部局ごとに図書を分散させるのは望ましくない。
26	比文	「知りたいこと」を明らかにするために図書館に行くので、利用者側も勿論ですが、図書館の方も信頼を受けて職業的対応をしてほしいと思います。利用者に感情的な苦言を呈されると、利用づらくなります。留学生もたくさんいる大学です。利用者側も努力は欠かせませんが、職員とのコミュニケーションが原因で図書館のサービスを利用出来ず、学業がスムーズにいかないのは悲しいことだと思います。図書館のことを利用者が知らないのは当然のことだと思うので、分からないことを尋ねた際には、教えてください。
27	比文	レファレンスの質の向上。他大学の図書館との連携の強化。文献複写の申し込み等の窓口は、昼休み(12時～1時)は閉まっているが、その間も業務を遂行してほしい。雑誌(最新刊は除く)の貸し出しは、現在1週間で延長が認められていないが、一回は延長できるようにしてほしい。
28	人文	非常勤講師の場合、わざわざ図書館利用カードを作成してもらってから初めて利用が可能だが、それも毎年更新の必要があり、毎年連続して勤務している者には不都合を感じます。また、資料の郵送を行わないということでは研究に支障が生じるので是非とも改善をお願いしたい。できれば、非常勤に任命された時点で利用カードを自動的に発給していただきたい。
29	比文	図書館のサービスには大変満足し、感謝している。しかし、ハードの部分では残念に思うことが少なくない。人の視線が集中力を妨げることのないような配慮ある閲覧スペース、ロッカーや傘立てなどゆとりある荷物の収容力の整備、書棚のすぐそばの椅子の配置など、利用者本位(基本は個人)の設備を充実してもらえると、個人的にもっと図書館に足を運びたくなるし、学生にも利用を促しやすくなる。ところが現在の図書館は、滞在時間をできるだけ短くしたい場所ではない。伊都図書館は、持ち込み資料で勉強させるか、インターネット閲覧をさせるためには便利だが、内部の図書資料を見て、気に入ったものを読んでいくという使用には不便である。また、文系図書館は、資料を館内でコピーさえできず(数年前の事です。今は状況が変わったかもしれませんが、あまりに不便なのでこの数年ほど利用していません)、中央図書館でも、多くの資料が配架されている2階にコピー機は設置されていないので、不便を感じる人が多い。そのため、わざわざ箱崎キャンパスに行って利用しようという気にはなれない。(種々の業務で箱崎に足を運ぶので、利用しやすい環境が整っていると大変助かるのだが。)もちろん、これらの事態にはそれなりの考えがあつてのことだと推察する。コピー機を分散配置するとメンテなどで面倒であるだろうし、また予算的な問題もあるのかもしれない。しかし、コピー機の設置や、コピー方法の掲示などは、最低限の基盤整備の部類に入ることではないだろうか。現在の伊都図書館は、全学教育の学生も利用するということを考えるならば、入学したばかりの学生にどのような情報を提供すべきか、Q-Commonsと連動した形で修学指導を兼ねた図書情報の配置ができないか、さまざまな工夫の余地があるように思う。ところが現実には、伊都図書館入り口左にあるようなお薦め図書スペースや、右側の雑誌棚が、九州大学の大学図書館としての品位を落としてしまっている。図書館にいれば必ず新しい発見がある、という仕掛けを作って欲しい。このことは、特にすべてが電子空間で事が足りると思っている人が多い現在、図書館に課せられた大きな使命だと思う。そしてそれは、それほど難しいことではないと思う。例えば、新聞、雑誌などを今のように奥まったところに置くのではなく、入り口の近いところに集中配置し、ゆっくり読めるようにソファを置く。それだけでも違う。また、利用規程や利用マナーに関する掲示は入り口前、必ず人の目に触れる場所に集約し、図書館内には学術的な情報と館内案内だけを掲示する。新書や文庫を単行本などから離れたところに置くのではなく、同じ空間に置く。(壁や通路を新書棚、文庫棚にできないだろうか。)図書館内を歩いているだけで、いろいろな情報が入ってきて、知的な刺激を与える、そんな空間的な工夫をしてほしい。図書館の本来の機能を果たすために、なすべきことはもっとあるのではないだろうか。
30	法	伊都はバスを利用しなければならず、自転車の利用も極めて不便だから、学生にとっては遅くなれば朝まで居残って学習できる環境が必要。中央図書館を24時間利用可能にできないか。
31	比文	貸出率の高い図書は開架に貸出率が低い図書や低下した図書は閉架へ収納するようにしてほしい。屋台ではないが、(リモート)貸し出し返却ブースを設けてほしい。中央図書館等の資料も長期貸し出しを可能にしてほしい。
32	人文	箱ものばかりに目がいきがちであるが、現存資料の保存の観点から、この機会に是非ともお願いしたい。それは保存書庫にある松涛文庫の数千点におよぶ和装本の保存である。現在は本を保護する帙がなく、資料劣化が非常に進みやすい状態にある。他の本と同じように、帙を作るべきである。また、近年寄贈された雅俗文庫の本についても同様の配慮を願う。段ボールに入れたままというのは、図書館学・アーカイブズ学の専攻を有する大学としては恥ずかしい話である。

設問9 その他、新中央図書館や現在の図書館についてご意見	
33 比文	研究室の図書はそのまま、新研究室で閲覧可能なスペースを確保してください。
34 比文	今の伊都キャンパスによるあるような変なカタカナ名称は断固として付けないようにしてください。(例、ビックオレンジ、ビックサンド、ビックドラ、おうめい天空広場など)。長期的に考えて、こういう変な名前は飽きられます。普通の名称を付けてください。(いまのこういう変な名称は、付けた人々の世代(現在の中高年層)を感じさせ、いまでも失笑ものです)。
35 人環(文)	ドイツでは館内の暖気を得るのにPCを集中して熱気を室内に取り込み、外からの冷気を取り込む際には暖気のパイプと交差することで、冷気を温暖化してとりこみ、暖気を冷化して外部に排出するパッシブハウスの理念が浸透しており、フライブルクのヴォータン地区ではこれ以外の建築は無駄なエネルギーを使うものとして避けられている。新中央図書館も、面積や開架問題ばかりでなく、こうしたエネルギー不要の仕組みを作って欲しいものである。それは日本の他大学に誇れる施設ともなるであろう。

まとめ

この報告書では、以下の2つの観点について回答全体の傾向について述べ、今後の新中央図書館基本計画の検討のなかでさらに分析や対応を行うこととする。

―学内資料の利用状況/図書館へのアクセス―

本学ではとくに箱崎地区の文系部局にとって中央図書館の機能が弱く、その結果多くの資料が研究者の身近にある文系合同図書室や学科図書室あるいは講座・研究室に所蔵されてきた。そしてこの恵まれた研究環境が箱崎地区の文系研究室の特質となっている。

今回のアンケートへの回答でも、とくに人文科学研究院では回答者のうち3分の2以上の教員・院生が「講座等の研究室、共通室所蔵の資料が、新中央館に収蔵されれば、研究・教育に支障が生じる」と答えている。また法学研究院では「新中央館までの距離による」という回答まで含めると、全体の97%が「貝塚文系地区書庫（文系合同図書室）所蔵の資料が、移転後に新中央館に収蔵されれば、研究・教育に支障が生じる」と答えている。そのほか人間環境学研究院の工学部系（建築学系）では学科図書室の資料への依存度が高く、部局ごとの資料の利用状況の特徴を見出すことができる。回答者はこのことによって生じる支障について、新中央図書館の24時間開館でもほとんど解消されないと考えていることから、問題が「サービス時間」でなく「図書館への距離・所要時間」による問題であることがわかる。

また、人文学研究院、法学研究院では、新中央図書館への許容できるアクセス時間を3分以内とした教員・院生が回答者のうちの半数を超えており、伊都キャンパスにおける配置計画において新中央図書館へのアクセスが充分考慮されなければならない。

―図書館における教育施設・設備―

図書館における教育施設については、半数を超える回答者が「利用する」としている。ただし詳細については大規模なホールや講義室への要望と、10名程度の小規模な演習・ゼミ室への要望に大きく分かれた。このことから判断すると、学科や学部単位で行う通常の講義形式による中規模（50から100名程度）の講義室は部局での整備が前提となり、学会や講演会または資料を活用しながらのディスカッション対話型教育である演習・ゼミへの対応が図書館に求められていると判断できる。中にはゼミ室は不要との意見もあり、部局での教育環境の十分な整備を前提とすれば、教育に関して図書館はあくまでも補完的役割を担うとらえるべきである。